

東近江市立能登川南小学校エコスクール委員会

本校のエコスクール活動は、平成15年から取組を開始して、7年目を迎えています。学校ぐるみで地域の山や川を守ることによって、びわ湖を大切にでき、そして地球にやさしいエコスクール活動へと発展させる取組をしています。

活動を進めることによって、環境に配慮した学校生活、家庭・地域での生活が実践されます。活動内容としては、節電や節水活動、リサイクル活動とごみの減量作戦、家庭や地域にエコ活動を呼びかけ、植樹や緑のカーテンなどの活動、里山や里湖などの身近な環境を守る活動を行っています。



高島市立今津中学校エコスクール



今中エコ・スクールは、環境問題の解決を目指し、自分たちで企画し、地域の方々の協力を得ながら活動し、その反省をもとにして、次の活動につなげる取り組みです。

今年は、釣り好きで琵琶湖に興味を持つメンバーが多く、外来魚の問題を中心に計画を進めています。今年も、私たちの活動が発展し、2学年のカヤック琵琶湖横断となったり、文化祭の取り組みテーマが環境問題となったりと、徐々に活動が全体の取り組みに広がっています。

TANAKAMI こども環境クラブ クリスタルエコ

私たちクリスタルエコは、大津市の田上学区に住んで田上小学校に通っている5年生と6年生がメンバーのグループです。

田上に湖南アルプスと言われている山があり、そこから流れている天神川という川があります。多くの動植物が生息しており自然豊富な地域です。また大戸川という川も流れており、天神川と大戸川の川の調査を行っています。今までに魚調査、水質調査、水生生物調査等、トンボ調査を行いました。調査してわかったことは、田上には貴重な自然が沢山あり守っていききたいです。また他の地域の人にも知ってもらいたいと思っています。今は川のゴミについても実験、観察を行いながら調べています。



ホタルの学校 ~ 大津市千丈川 ~



たくさんのホタルが生息する千丈川には、魚やカワニナ・トンボのヤゴなど生きものたちがいっぱいすんでいます。7年目をむかえた「ホタルの学校」は、生きものたちとの出会い、多くの地域の人たちとの出会いを通じて、子どもたちは豊かな心を育てています。

今年も「ホタルの夕べ」や子どもたちの研究発表をした「文化祭」は、子どもたちと地域の人たちの心をいっぱいつないでくれました。

NPO法人 蒲生野考現倶楽部

水辺の遊びを中心とした子どもと親とお年寄りの三世代を軸に身近な川、山の自然観察や調査研究、水文化伝承などの活動を行っています。

環境啓発として、ホタルコンサートでは、小さな水辺の生き物が放つ光が穏やかな暗闇の中にゆっくりと揺れ動く様子はまるで動くシルエットを見ているようです。

かいどり大作戦(魚つかみ)は、川の生き物を捕まえる体験活動を通して川の生態調査・環境診断をします。

環境こだわり米づくりは、農薬を使わない田んぼに、卵をかかえたホウネンエビやカブトガニなどが気持ちよさそうに泳いでいます。



山内エコクラブ



県境にある山内は鈴鹿馬子唄で有名な所で小学生全員、馬子唄が唄えます。

周りを山に囲まれている山内は、琵琶湖に注ぐ野洲川の上流にあり、校区には山内川の清流が流れています。地域を調べていると山内には水と暮らしのすごい文化があることが分かりました。お鏡を調査したことやお年寄りに聞いたこと、川へ行って調べたことなどを飛び出しジャンボ絵本にしました。

今年は東京や沖縄でも発表しました。みんな一度山内にきてね。

伯母Q五郎 ～ 伯母川研究子どもエコクラブ～

伯母Q五郎は、滋賀県草津市内の子どもとその保護者が、活動している子どもエコクラブです。

地域を流れる伯母川・草津川・葉山川とその先の琵琶湖で生き物調査や水質調査をしています。活動のテーマは「ふるさとの自然のすばらしさを見つけること・伝えること」です。子どもたちによる調査結果は、ホームページに載せたり、壁新聞にまとめたりして、地域の人々に紹介しています。

また、国内外の発表会に参加して積極的に子ども交流を進めています。



高島市立マキノ東小学校



マキノ東小学校は、琵琶湖岸からわずか50mのところであり、学校の前から堀を兼ねた川を通して琵琶湖までカヌーで直接漕ぎ出すことができ、毎年琵琶湖の西岸をカヌーで旅しながら、琵琶湖の水・植物・魚のことを学習しています。

普段は水辺活動や理科・生活科・総合的な学習の時間での生物・水質調査を行っています。さらに、学校近くにビオトープとして整備された内湖や川で植物や昆虫を観察しています。

学校のある海津・西浜地区は、京都と北陸を結ぶ北国街道の港町・宿場町であった時代の遺産である湖岸の町並みや石積みがあり、重要文化的景観に指定されています。

水のかけ橋びわこ子ども委員会

琵琶湖がある日本と八堂湖のある韓国と交流して5年経ちます。毎年、1週間ほど両国の子どもが行き来し合って、湖や里山を見学したり暮らしについて話し合ったりしてきました。

今年は、韓国インチョンで開かれた「アジア子ども水フォーラム」に子ども8人が参加しました。水をどのように使えばよいかを話し合い、その内容を宣言文にまとめて世界都市水フォーラムで発表しました。日本でも宣言文を実践できるように広げていきたい。



アイキッズ～エコアイデアキッズびわ湖～



滋賀県草津市にあるパナソニックの工場を活動拠点として、個性ゆたかな23名が狼川や琵琶湖で活動しています。

合言葉は、「あいさつ」「チャレンジ」「感謝」の3つ。講師は、工場働く人、生き物の専門家、琵琶湖の漁師さんなど地域に暮らす様々な立場の大人たち。それらの人々との触れ合いの中で、思いを聴き、学びを深めています。